

【Ⅲ-1 医療機能や患者の状態に応じた入院医療の評価 -②】

② D P C / P D P S の見直し

第1 基本的な考え方

機能評価係数Ⅱについて、高度・先進的な医療の提供に関する評価項目の実態を踏まえ、要件を見直す。また、個別の病院の指定状況について把握が困難であった新型インフルエンザ等対策について、評価の対象となる医療機関が明確となった事を踏まえ、要件を見直す。

入院医療の適切な評価を推進するとともに、データ入力の負荷を軽減する観点から、診断群分類を含む算定に係る要件及びD P Cデータの調査項目等について要件を見直す。

第2 具体的な内容

1. 診療報酬改定に関連した見直し

急性期入院医療の評価の見直しに伴い、必要な見直しを行う。

2. 基礎係数（医療機関群の設定等）の見直し

医療機関群の設定について、基本的な考え方は現行の3つの医療機関群の設定方法を維持する。

① 設定要件

○ D P C特定病院群は以下の要件を満たした医療機関とする。

- ・ 実績要件1～4の全て（実績要件3については、6つのうち5つ）を満たす。
- ・ 各要件の基準値は、大学病院の最低値（外れ値は除く）とする。
- ・ 各病院の基準値は、診療報酬改定に使用する実績（平成30年10月～令和元年9月の診療内容及び診断群分類）に基づき設定する。

【実績要件1】：診療密度

1日当たり包括範囲出来高平均点数（全病院患者構成で補正：外的要因、後発品補正）

- ・ 当該医療機関において症例数が一定以上（1症例／月：極端な個別事例を除外するため）の診断群分類に該当する患者について、当該医

療機関が全DPC対象病院の平均的な患者構成と同様な患者群に対して診療を行ったと仮定した場合の1日当たり包括範囲出来高実績点数を算出する。

- ・ 当該医療機関における入院医療で用いられる医薬品のうち、「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」（令和元年9月4日～令和元年9月30日）に掲載された「2：後発医薬品がある先発医薬品」に該当する医薬品に対して薬価基準収載医薬品コード9桁（成分、剤形によって分類された同一分類内の規格単位まで）が一致する「3：後発医薬品」の薬価最低値に置き換えた場合の1日当たりの包括範囲出来高実績点数を算出する。

【実績要件2】：医師研修の実施

届出病床1床あたり臨床研修医師の採用数（基幹型臨床研修病院の免許取得後2年目まで）

- ・ 各医療機関が厚生労働省に報告している臨床研修医の採用数と、医療法上の許可病床総数により算出する。
- ・ 特定機能病院は当該実績要件を満たしたものとして取り扱う。

【実績要件3】：医療技術の実施

- ・ 外科系（外保連試案9.2版）

(3a)：手術実施症例1件あたりの外保連手術指数（外科医師数及び手術時間補正後）

(3b)：DPC算定病床当たりの同指数（外科医師数及び手術時間補正後）

(3c)：手術実施症例件数

「(3a)：手術実施症例1件あたりの外保連手術指数（外科医師数及び手術時間補正後）」は、当該医療機関におけるDPC算定病床の全患者総計の外保連手術指数※を「(3c)：手術実施症例件数」で除して算出する。

「(3b)：DPC算定病床当たりの同指数（外科医師数及び手術時間補正後）」は、当該医療機関におけるDPC算定病床の全患者総計の外保連手術指数をDPC算定病床数で除して算出する。

「(3c)：手術実施症例件数」は、外保連試案（第9.2版）において技術難易度が設定されている手術が実施された症例を対象とする。ただし、点数設定から同等の技術と考えられるものも対象とする。

- ・ 内科系（特定内科診療（2014年度版）（別表1））

- (3A) : 症例割合
- (3B) : DPC算定病床当たりの症例件数
- (3C) : 対象症例件数

「(3A) : 症例割合」は、特定内科診療の対象症例数をDPC算定病床の全患者総計で除して算出する。

「(3B) : DPC算定病床当たりの症例件数」は、特定内科診療の対象症例数をDPC算定病床数で除して算出する。

「(3C) : 対象症例件数」は、特定内科診療の対象DPCコードと条件に一致する症例を対象とする。

※外保連手術指数の算出方法

外保連手術指数の集計においては、様式1に記載された手術のうち、複数の記載がある場合については、最も外保連手術指数が高い手術の指数に基づき評価する。外保連手術指数は、外保連試案（第9.2版）に記載されている、外科医師数を含めた時間あたりの人件費の相対値（下表参照。難易度B、外科医師数1人を1としてそれぞれ相対化）に手術時間数を加味して各手術に重み付けし、集計対象手術それぞれについて合算し、算出する。

【例】難易度D、外科医師数3、手術時間数3の手術は $7.08 \times 3 = 21.24$

| 外科医師数 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| E | 13.56 | 13.29 | 13.02 | 12.74 | 11.74 | 9.43 | 5.66 |
| D | 8.17 | 7.90 | 7.63 | 7.36 | 7.08 | 6.08 | 3.77 |
| C | | | 4.13 | 3.86 | 3.58 | 3.31 | 2.31 |
| B | | | | 1.82 | 1.54 | 1.27 | 1.00 |

難易度、外科医師数、手術時間数はいずれも外保連試案の規定を採用。

- ・ 外保連試案と結びつけられなかったKコード（医科点数表の手術コード）の手術については、医科点数表の点数設定を参考に、類似する手術が存在する場合に同じ難易度を付与する。それ以外のものについては集計の対象外とする。
- ・ 1つのKコードに複数の外保連試案コードが対応する場合は、外科医師数を最も重視する形で外保連手術指数を算出する。具体的には次の順で対応する手術を1つに絞り対応関係を作成する（外科医師数を最優先）。
- ・ 内視鏡試案における評価は「手技技術度」、「協力医師数+1」、「施行時間」。

別表 1 特定内科診療25疾患

| 疾患 No. | 疾患名 | 対象DPCコードと条件 | ポイント |
|--------|--------------------|---|---------------------------|
| 1 | 重症脳卒中 (JCS30以上) | 010040x199x\$\$\$x (入院時JCS30以上) 010060x199\$\$\$\$ (入院時JCS30以上) 010060x399\$\$\$\$ (入院時JCS30以上) DPC対象外コード含 | 出血と梗塞 JCS30以上 |
| 2 | 髄膜炎・脳炎 | 010080xx99x\$\$\$ (入院時JCS100以上、もしくは処置2ありのうち人工呼吸あり) | 処置2 (人工呼吸) |
| 3 | 重症筋無力症クリーゼ | 010130xx99x\$xx (処置2あり/なし) (ICDG700のみ) (DPC外含) | 診断名 (ICD10) で判断 |
| 4 | てんかん重積状態 | 010230xx99x\$\$\$x (処置2・副傷病あり/なし) (ICDG41\$のみ) | 診断名 (ICD10) で判断 |
| 5 | 気管支喘息重症発作 | 040100xxxxx\$\$\$x (処置2あり) (J045人工呼吸) (ICDJ46\$, J45\$のみ) | 処置2 (人工呼吸) |
| 6 | 間質性肺炎 | 040110xxxxx\$xx (処置2あり) (ICD絞りなし) のうちJ045人工呼吸あり | 処置2 (人工呼吸) |
| 7 | COPD急性増悪 | 040120xx99\$1\$x (処置2あり) (J045人工呼吸) (DPC外含む) | 処置2 (人工呼吸) |
| 8 | 急性呼吸窮<促>迫症候群、ARDS | 040250xx99x\$xx (処置2あり) (PGI2ありの場合、J045人工呼吸があれば可) | 処置2 (人工呼吸) |
| 9 | 急性心筋梗塞 | 050030xx975\$\$\$x (処置1 5あり) (ICDI21\$のみ) | Kコードあり |
| 10 | 急性心不全 | 050130xx99\$\$\$\$x (処置2あり) (SPECT・シンチ・中心静脈注射のいずれかありの場合、人工呼吸または緊急透析があれば可) 050130xx975\$xx (処置1 5あり) | 人工呼吸または緊急透析 Kコードあり |
| 11 | 解離性大動脈瘤 | 050161xx99\$\$\$x (処置2あり中心静脈注射のみ除く) (DPC外含) | 処置2 (人工呼吸・緊急透析) |
| 12 | 肺塞栓症 | 050190xx975xxx (処置1 5あり) (ICDI822を除く) 050190xx99x\$xx (処置2あり中心静脈注射のみ除外) (ICDI822を除く) | 処置2 (人工呼吸・緊急透析) Kコードあり |
| 13 | 劇症肝炎 | 060270xx\$\$\$x\$xx (手術あり/なし、処置2あり、中心静脈注射の除外) (ICD絞りなし) | 処置2 (人工呼吸、PMX等) |
| 14 | 重症急性膵炎 | 060350xx\$\$\$1x\$ (手術あり/なし、処置2あり中心静 | 処置2 (人工呼 |

| | | | |
|----|--------------|--|---------------------|
| | | 脈注射のみ除外) (ICDK85\$のみ) (DPC外含) | 吸、CHDF等) |
| 15 | 糖尿病性ケトアシドーシス | 100040 (DPC6桁全て) | 診断名あればすべて |
| 16 | 甲状腺クリーゼ | 100140xx99x\$\$x (処置2あり/なし) (ICDE055のみ) | 診断名あればすべて |
| 17 | 副腎クリーゼ | 100202xxxxxxx (処置2あり/なし) (ICD E272のみ) | 診断名あればすべて |
| 18 | 難治性ネフローゼ症候群 | 110260xx99x\$\$x (処置2あり/なし) (腎生検D412 必須) | 診断名と腎生検 |
| 19 | 急速進行性糸球体腎炎 | 110270xx99x\$\$x (処置2あり/なし) (腎生検D412 必須) (DPC外含) | 診断名と腎生検 |
| 20 | 急性白血病 | 130010xx99x\$\$x (化学療法あり) 130010xx97x\$\$x (化学療法あり) (ICDC910、C920、C950のみ) (DPC外含) | 化学療法、実症例数 |
| 21 | 悪性リンパ腫 | 130020xx\$\$x\$\$x (化学療法あり) (DPC外含) 130030xx99x\$\$x (化学療法あり) 130030xx97x\$\$x (化学療法あり) (ICD絞りなし) (DPC外含) | 化学療法、実症例数 |
| 22 | 再生不良性貧血 | 130080 (DPC6桁全て) (ICD絞りなし) | 実症例数 |
| 23 | 頸椎頸髄損傷 | 160870 (DPC6桁全て) (ICD絞りなし) (リハビリ実施必須) | リハビリ |
| 24 | 薬物中毒 | 161070 (DPC6桁全て) (処置2あり 中心静脈注射のみ除外) (ICD絞りなし) (DPC外含) | 処置2 (人工呼吸器・PMX等) あり |
| 25 | 敗血症性ショック | 180010x\$xxx3xx (処置2 3あり) (ICD絞りなし) (DPC外含) | 処置2 3 (PMX・CHDF) あり |

【実績要件4】:補正複雑性指数(DPC補正後)

全DPC対象病院データの平均在院日数より長い平均在院日数を持つDPCで、かつ、1日当たり包括範囲出来高実績点数が平均値より高いDPCを抽出。これらのDPCについて複雑性指数を算出する。

② 基準値

- 各要件の基準値は大学病院の実績値を踏まえて以下の通りとする。

| 実績要件 | | 令和2年度基準値 |
|--|---------------------------|---|
| 【実績要件1】: 診療密度 1日当たり包括範囲出来高平均点数 (全病院患者構成、後発医薬品補正; 外的要因補正) | | 外れ値を除外し最低値を設定 (具体的な数値は最終データの 確定により設定) |
| 【実績要件2】: 許可病床1床あたりの臨床研修医師数 (基幹型臨床研修病院における免許取得後2年目まで) | | |
| 【実績要件3】: 医療技術の実施 (6つのうち5つを満たす) | | |
| 外保連試案 | (3a): 手術実施症例1件当たりの外保連手術指数 | 外れ値を除外し最低値を設定 (具体的な数値は最終データの 確定により設定) |
| | (3b): DPC算定病床当たりの同指数 | |
| | (3c): 手術実施症例件数 | |
| 特定内科診療 | (3A): 症例割合 | |
| | (3B): DPC算定病床当たりの症例件数 | |
| | (3C): 対象症例件数 | |
| 【実績要件4】: 補正複雑性指数(DPC補正後) | | |

3 機能評価係数 I

機能評価係数 I については、出来高評価体系における「当該医療機関の入院患者全員に対して算定される加算」や「入院基本料の補正值」等を評価しており、従前の評価方法を継続し、出来高評価体系の改定に応じて必要な見直しを行う。

4 機能評価係数 II

既存の6つの係数項目を継続し、地域医療係数については、高度・先進的な医療の提供に関する評価項目の実態を踏まえ、要件を見直す。また、個別の病院の指定状況について把握が困難であった新型インフルエンザ等対策について、評価の対象となる医療機関が明確となった事を踏まえ、要件を見直す。(別表2)

5 激変緩和係数

診療報酬改定のある年度については、診療報酬改定等に伴う個別医療機関別係数の変動に関して、推計診療報酬変動率(出来高部分も含む)が2%程度を超えて変動しないよう激変緩和係数を設定する。(診療報酬

改定のない年度の当該係数は0)

新たにDPC/PDPSに参加する医療機関について、診療報酬改定前の実績と比べて2%を超えて低く変動した場合は、改めて当該医療機関の出来高算定実績に代えて、当該医療機関が所属する医療機関群の平均的な医療機関別係数の値を用いて推計診療報酬変動率(補正診療報酬変動率)を算出し、その結果が2%を超えて低く変動する場合のみ、補正診療報酬変動率がマイナス2%となるように措置を行う。

6 その他

診断群分類点数表について、医療資源の同等性、臨床的類似性の観点から、診断群分類及び診断群分類毎の評価を見直す。

退院患者調査の調査項目については簡素化も含めた必要な見直しを行う。

別表2 <機能評価係数Ⅱの具体的な評価内容(令和2年度)>

| <項目> | 評価の考え方 | 評価指標（指数） |
|--------|--|--|
| 保険診療指数 | 提出するデータの質や医療の透明化、保険診療の質的向上等、医療の質的な向上を目指す取組を評価原則として1点、右記の基準に該当した場合はそれぞれ加算又は減算 | <p>適切なDPCデータの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「部位不明・詳細不明コード」の使用割合が10%以上の場合、0.05点減算する。 ・DPCデータの様式間の記載矛盾のあるデータの件数が全体の1%以上の場合、0.05点減算する。 <p>様式1の親様式・子様式間（データ属性等（郵便番号、性別、生年月日等）、様式1とEFファイル間（入院日数入院料の算定回数の矛盾）、様式4とEFファイル（医科保険情報と先進医療等情報の矛盾）、DファイルとEFファイル（記入されている入院料等の矛盾）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未コード化傷病名である傷病名の割合が2%以上の場合、0.05点減算する。（様式1で評価） ・病院情報の公表：自院のホームページで公表した場合に0.05点加算する。 ・（保険診療への取組：令和4年度からの評価を検討） |
| 地域医療指数 | 体制評価指数と定量評価指数で（評価シェアは1:1）構成 | <p>体制評価指数： 5疾病5事業等における急性期入院医療を評価（別頁に詳細を記載）</p> <p>定量評価指数： 〔当該医療機関の所属地域における担当患者数〕／〔当該医療機関の所属地域における発生患者数〕を1）小児（15歳未満）と2）それ以外（15歳以上）に分けてそれぞれ評価（1:1）。 DPC標準病院群は2次医療圏、大学病院本院群及びDPC特定病院は3次医療圏のDPC対象病院に入院した患者を対象とする。</p> |

評価対象：平成30年10月1日～令和元年9月30日データ

| | | |
|--------|-------------------------------------|---|
| 効率性指数 | 各医療機関における在院日数短縮の努力を評価 | <p>〔全DPC/PDPS対象病院の平均在院日数〕／〔当該医療機関の患者構成が、全DPC/PDPS対象病院と同じと仮定した場合の平均在院日数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12症例（1症例/月）以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> <p>※ 包括評価の対象となっている診断群分類のみを計算対象とする。</p> |
| 複雑性指数 | 1入院当たり医療資源投入の観点から見た患者構成への評価 | <p>〔当該医療機関の包括範囲出来高点数（一入院当たり）を、包括対象の診断群分類ごとに全病院の平均包括範囲出来高点数に置換えた点数〕／〔全病院の平均一入院あたり包括点数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12症例（1症例/月）以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> |
| カバー率指数 | 様々な疾患に対応できる総合的な体制について評価 | <p>〔当該医療機関で一定症例数以上算定しているDPC数〕／〔全DPC数〕</p> <p>※ 当該医療機関において、12症例（1症例/月）以上ある診断群分類のみを計算対象とする。</p> <p>※ すべて（包括評価の対象・対象外の両方を含む）の支払い分類を計算対象とする。</p> |
| 救急医療指数 | 救急医療（緊急入院）の対象となる患者治療に要する資源投入量の乖離を評価 | <p>1症例あたり〔以下の患者について、入院後二日間までの包括範囲出来高点数（出来高診療実績）と診断群分類点数表の設定点数との差額の総和〕※救急医療管理加算2相当の指数値は1/2</p> <p>【「A205救急医療管理加算」の施設基準を取得している施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「救急医療入院」かつ以下のいずれかを入院初日から算定している患者 ・「A205救急医療管理加算」、「A301-3脳卒中ケアユニット入院医療管理料」、「A300救命救急入院料」、「A301-4小児特定集中治療室管理料」、「A301特定集中治療室管理料」、「A302新生児特定集中治療室管理料」、「A301-2ハイケアユニット入院医療管理料」「A303総合周産期特定集中治療室管理料」 <p>【「A205救急医療管理加算」の施設基準を取得していない施設】：「救急医療入院」の患者</p> |

<地域医療指数・体制評価指数>

| 評価項目 | 概要 | DPC 標準病院群 | 大学病院本院群 | DPC 特定病院群 |
|------|-------------------------------------|--|--|--------------------------|
| がん | がんの地域連携体制への評価 (0.5P) | 当該医療機関を退院した患者について、〔「B005-6 がん治療連携計画策定料」を算定した患者数〕 / 〔医療資源病名が悪性腫瘍に関連する病名（例：胃の悪性腫瘍等）である患者数〕 | | |
| | 医療機関群毎にがん診療連携拠点病院等の体制への評価 (0.5P) | 「がん診療連携拠点病院の指定」、「小児がん拠点病院の指定」、「地域がん診療病院」、「特定領域がん診療連携拠点病院」（いずれかで 0.5P) | 「都道府県がん診療連携拠点の指定」又は「小児がん拠点病院」の指定（0.5P） | 「地域がん診療連携拠点病院の指定」（0.25P） |
| 脳卒中 | 脳卒中の急性期の診療実績への評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・ t-PA 療法(イ)の実施を評価(0.25P) ・ A205-2 超急性期脳卒中加算の算定実績(ロ)又は血管内治療の実施実績(ハ)を評価(0.5P) ・ A205-2 超急性期脳卒中加算の算定実績(ロ)及び血管内治療の実施実績(ハ)を評価(1P) (血管内治療の実施：入院2日目までに K178-31, K178-32, K178-4 のいずれかが算定されている症例の診療実績) <p>※ ・ 評価イ を満たす場合、0.25 ポイント</p> <p>・ 評価ロ もしくは 評価ハ を満たす場合、0.5 ポイント</p> <p>・ 評価ロ かつ 評価ハ を満たす場合、1 ポイント いずれかの最大値がポイントとなる。</p> | | |

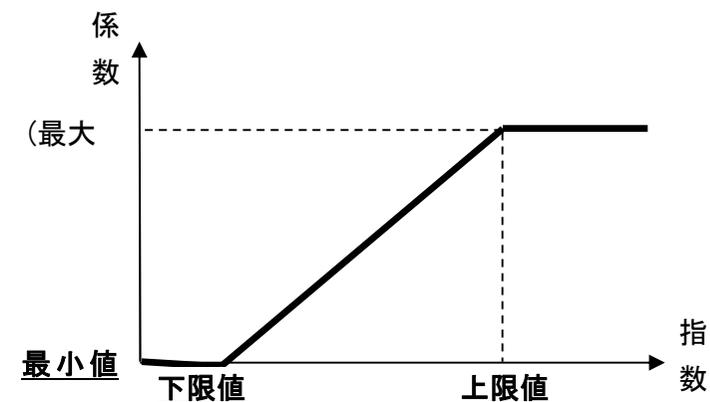
| 評価項目 | 概要 | DPC標準病院群 | 大学病院本院群 | DPC特定病院群 |
|-------------|--------------------------------|--|--|----------|
| 心筋梗塞等の心血管疾患 | 緊急時の心筋梗塞のPCIや外科治療の実績 (0.5P) | 医療資源を最も投入した傷病名が「急性心筋梗塞」であり、予定外の入院であって時間外対応加算（特例を含む）・休日加算・深夜加算が算定され、入院2日目までに経皮的冠動脈形成術等（K546、K547、K548、K549、K550、K550-2、K551、K552、K552-2）のいずれかが算定されている症例の診療実績により評価 | | |
| | 急性大動脈解離の手術実績 (0.5P) | 入院中にK5601, K5602, K5603, K5604, K5605, K560-21, K560-22, K560-23, K5612 のいずれかが算定されている症例の診療実績（25%tile値以上の医療機関を0.5P、その他は0P） | | |
| 精神疾患 | 精神科入院医療への評価 | A230-3精神科身体合併症管理加算の算定実績(0.5P) A311-3精神科救急・合併症入院料の1件以上の算定実績(1P) | | |
| 災害 | 災害時における医療への体制を評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・BCPの策定実績有無別（令和3年以降の評価導入を検討）災害拠点病院の指定（0.5P） ・DMATの指定（0.25P） ・EMISへの参加（0.25P） | | |
| 周産期 | 周産期医療への体制を評価 | 「総合周産期母子医療センターの指定」、「地域周産期母子医療センターの指定」を評価（いずれかで1P） | <ul style="list-style-type: none"> ・「総合周産期母子医療センターの指定」を重点的に評価（1P） ・「地域周産期母子医療センターの指定」は0.5P | |
| へき地 | へき地の医療への体制を評価 | 「へき地医療拠点病院の指定」又は社会医療法人認可におけるへき地医療の要件を満たしていることを評価（いずれかで1P） | | |

| 評価項目 | 概要 | DPC標準病院群 | 大学病院本院群 | DPC特定病院群 |
|------|----------------------|--|---|----------|
| 救急 | 医療計画上の体制及び救急医療の実績を評価 | 二次救急医療機関であって病院群輪番制への参加施設、共同利用型の施設又は救命救急センターを評価(0.1P) | ・救命救急センター(0.5P) 二次救急医療機関であって病院群輪番制への参加施設、共同利用型の施設(0.1P) | |
| | | 救急車で来院し、入院となった患者数(最大0.9P) | 救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院に限る)(最大0.5P) | |
| その他 | その他重要な分野への貢献 | 右記のいずれか1項目を満たした場合1P | ① 治験等の実施 ・ <u>過去3カ年において、主導的に実施した医師主導治験が8件以上、又は主導的に実施した医師主導治験が4件以上かつ主導的に実施した臨床研究実績が40件以上(1P)</u> ・20例以上の治験(※)の実施、10例以上の先進医療の実施または10例以上の患者申出療養の実施(0.5P)(※)協力施設としての治験の実施を含む。 | |
| | | ② <u>新型インフルエンザ対策</u> ・ <u>新型インフルエンザ患者入院医療機関に該当(0.25P)</u> | | |

地域医療計画等における一定の役割を9項目で評価(1項目1P、上限は大学病院本院群、DPC特定病院群:8P、DPC標準病院群:6P)

<評価定義域の下限値・上限値及び評価値域の最小値>

| 具体的な設定 | 指数 | | 係数 | 評価の考え方 |
|---------------|------------------|------------|-----|---------|
| | 上限値 | 下限値 | 最小値 | |
| 保険診療 | (固定の係数値のため設定なし。) | | | 群ごとに評価 |
| 効率性 | 97.5%tile 値 | 2.5%tile 値 | 0 | 全群共通で評価 |
| 複雑性 | 97.5%tile 値 | 2.5%tile 値 | 0 | 群ごとに評価 |
| カバー率 | 1.0 | 0 | 0 | 群ごとに評価 |
| 救急医療 | 97.5%tile 値 | 0 | 0 | 全群共通で評価 |
| 地域医療 (定 量) | 1.0 | 0 | 0 | 群ごとに評価 |
| (体制) | 1.0 | 0 | 0 | |



<地域医療指数・体制評価指数のうち実績評価を加味する項目>

- がん地域連携体制への評価、緊急時の心筋梗塞のPCIや外科治療の実績、精神科身体合併症管理加算の算定実績
 - ・特に規定する場合を除き、下限値は0ポイント(指数)、実績を有するデータ(評価指標が0でないデータ)の25パーセンタイル値を各項目の上限値(つまり、実績を有する施設の上位4分の3は満点)。
- 脳卒中、急性大動脈解離に対する手術実績
 - ・実績を有するデータ(評価指標が0でないデータ)の25パーセンタイル値を満たす場合は各項目の上限値あるいは条件を満たす。25パーセンタイル値に満たない場合は、0ポイント(指数)、あるいは条件を満たさない、とする。

